

トルクロホスメチル粉剤 リゾレックス粉剤	取扱メーカー： 北興、住友化学、一農、琉産 原体メーカー： 住友化学
成分： トルクロホスメチル〔有機リン系〕……………5.0%	性状： 類白色粉末45 μ m以下 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- 土壌混和、株元施用により、リゾクトニア属、コルティシウム属などの土壌病害に効果を示す。
- 土壌吸着力が強く流亡しにくいいため、土壌処理（混和）では一般に30～45日間の残効がある。
- 土壌の条件（土質・pH・施肥）による効果への影響が少ない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 土壌混和の際、できるだけ均一になるように十分に混和する。
- 施設で使用した後、施設内に臭気が残る場合には換気を行う。

【薬効・薬害等の注意】……………

- てんさいの苗立枯病防除に使用する場合は、ピシウム菌、アフアノマイセス菌、フザリウム菌に起因する苗立枯病には効果が劣るので、これらの菌

が優占する圃場での使用はさける。

- 野菜類の苗立枯病防除ではリゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、他の病原菌による苗立枯病では効果が劣るので、それらによる苗立枯病の混発が予想される場合には、他の有効な薬剤と組み合わせて使用する。
- ほうれんそうの株腐病防除に使用する場合は、多発生条件では効果がやや劣ることがあるので、所定範囲での多い薬量を土壌混和する。
- 共通注意事項8．適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】……………

- つまみ菜、間引き菜には使用しない。
- 甲殻類、藻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。



【適用と使用法】……………

作物名	適用病害名	10 a 当り 使用量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを 含む農薬の総使用回数
てんさい	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	125～250 g ／10 a 分の用土 約280 ℓ	は種前	1 回	ペーパー ポット用 の用土又 は覆土に 均一に混和	6 回以内 (育苗土壌への 混和は1 回以 内、500 倍希釈 灌注は1 回以 内、100 倍希釈 灌注は1 回以 内、散布は3 回以 内)
		75～150 g ／10 a 分の覆土 約20 ℓ				
		50～100 g ／10 a 分の突起 板使用覆土約7 ℓ				

作物名	適用病害名	10 a 当り 使用量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを 含む農薬の総使用回数	
ト マ ト な き ゆ う り	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	50 ～ 100g／m ²	は種前	1 回	土壌混和	1 回	
ピ ー マ ン						4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種前 の土壌混和及び は種時の土壌灌 注は合計 1 回以 内、株元灌注は 2 回以内)	
う り 類 (漬 物 用)		白絹病	20 ～ 30kg	土寄せ前 但し、収穫 14 日前まで	3 回以内	株元散布	1 回
ね ん ぎ		リゾクトニア葉鞘腐敗病					30kg
み つ ば	立枯病	20kg	は種前	1 回	全面土壌混和	2 回以内 (は種前の土 壌 混 和 は 1 回以内)	
ふ き	白絹病	20 ～ 40kg	定植前		土壌混和	2 回以内 (定植前の土 壌 混 和 は 1 回 以 内 、 株 元 灌 注 は 1 回以内)	
ほうれんそう	株腐病		は種前		全面土壌混和	1 回	
麦 類	雪腐小粒菌核病	3 kg	根雪前		2 回以内	散 布	2 回以内
そ ば	立枯病	20 kg	は種前	1 回	全面 土壌混和	1 回	
ご ぼ う	黒あざ病	40 kg					
だ い こ ん	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌)	20 ～ 40kg					
に ん じ ん	根腐病						
う ど	白絹病	3 g／株	根株養成畑 定植前		根株粉衣	3 回以内 (粉 剤 は 1 回 以 内 、 水 和 剤 は 2 回以内)	
と う が ん	実褐斑病	30kg	45 日前 まで	1 回	土壌表面 散布	1 回	
み ず な	尻腐病		定植前		土壌混和		
だ い お う	苗立枯症	150 g／10 a 分 の突起板使用覆土 約 12 ℓ	は種前		ペーパーポッ ト用の覆土に 均一に混和		
チューリップ	葉腐病	10 ～ 20kg	植付時	定植前	土壌混和	5 回以内	
花 き 類・ 観 葉 植 物	立枯病						
ス イ ト ピ ー	腰折病						
シ ク ラ メ ン	苗立枯病 (リゾクトニア菌)						